

## 秋田市長を表敬訪問



01 要請書を手渡す  
京極組合長(中央)

02 かほり梨の  
大きさに驚く  
穂積市長

10月15日(月)、当JAの京極芳郎組合長や加藤貞吉専務ら役職員が秋田市の穂積志市長を表敬訪問し、秋田市産エダマメの販売額が1億円を突破した報告とさらなる地域農業の振興に向けた要請書を提出しました。

秋田市産エダマメの販売額は10月5日(金)時点で1億円を超え、同日までの市場への出荷総量は約107トンに上りました。

京極組合長は関係各所へ感謝の意を述べ、地域振興に関する要請書を手渡して園芸メカ団地を中心としたさらなる園芸振興、カントリーエレベーターやライスセンターといった穀物大型乾燥施設への支援、不作付け地の解消に向けた担い手農家への助成などを求めました。

また、当JAから天王地区産の梨「かほり梨」を贈呈し、穂積市長は大きさと香りのよさに驚いた様子でした。

## NEWS & TOPICS

### 牛島小学校で花育「一花一葉」

10月2日(火)、秋田市立牛島小学校で「一葉」推進プロジェクトの花育授業が行われました。1、2年生約120名が県オリジナルの「NAMA H A G E」シリーズなどの秋田市産ダリア1輪とハランの葉1枚を使い、葉を巻いたり葉脈に沿って切って結んだりと創意工夫を凝らしながら、ダリアとの組み合わせを楽しみました。

「二花一葉」は1輪の花と1枚の葉のみを用いて子どもの創造性や花を楽しむ心を育てようとする取り組みで、株式会社みづぎなどで構成される花育「一花一葉」推進協議会が各地の教育現場で行っています。

花を生ける児童



### 管内小学校で稲刈り授業

9月下旬から10月中旬にかけて、管内の小学校で稲刈りの体験授業が行われました。児童たちは5月に田植え作業を体験しており、待ちに待った収穫に歓声を上げていました。

10月5日(金)には、秋田市立外旭川小学校の5年生が地域の農家の方々とともに稲刈りを行いました。児童は鎌を使った収穫作業に一生懸命取り組み、刈り取り後は協力して稲を束ねました。作業を終えた児童は「思ったより大変だった」「みんなで協力しても時間がかかったので、農家はすごいと思った」と笑顔を見せていました。

刈った稲を運ぶ児童

「おらほの青年部」(P.10)にも小学校の稲刈り授業の様子を掲載しています。

